E-Oral Presentation | その他

E-Oral Presentation　10 (III-EOP10)

Chair:Tomoyuki Miyamoto(Children's Medical Center, Yokosuka General Hospital Uwamachi)
Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

[III-EOP10-04]Figulla Flex II ASD Occluderと Amplatzer Septal Occluderの留置後の形態変化および Valsalva wall圧迫の比較検討

○塚田 正範, 北野 正尚, 藤本 一途, 白石 公 (国立循環器病研究センター 小児循環器科)
Keywords:心房中隔欠損, カテーテル治療, Occlutech

【背景】 Figgula Flex II ASD occluder (FFIIO)は Amplatzer Septal Occluder (ASO) と比べ erosionが極めて少ないとされるが、留置後の形態変化は明らかではない。【目的】 FFIIOと ASOの留置後の形態変化と Valsalva wallへの圧迫を比較検討すること。【対象】当科で2016年2月から FFIIOを留置した38症例 (F群: 中央値年齢13歳、体重41.9kg; 平均 ASD最大径15.8mm、 device径20.2mm、 Qp/Qs 1.93) と2005～2007年に ASOを留置した78症例 (A群: 中央値年齢19歳、体重49.6kg; 平均 ASD最大径16.2mm、 device径21.0mm、 Qp/Qs 2.67)。【方法】経食道心エコーでの deviceの最厚時相の device径 (waist)、厚さ[中央部(Mid)、 Ao側(Ao)、後壁側(Post)]、 Ao側両 disk edge間隔(Edg)、 A shape例数(AS)、 Valsalva wall圧迫例数(VP)に関して、留置直後と6ヶ月後の変化を検討し、 F群と A群で比較検討した (2016年1月末では22例施行し、3月末までに38例施行予定)。【結果】留置直後：6ヶ月後 (mm)の順で、有意差 (p＜0.05) を (p) と記載した。 F群、 waist 15.2：14.9、 Mid 12.3：8.9 (p)、 Ao 16.8：14.4 (p)、 Post 12.5：10.1 (p)、 Edg 10.9：10.7、 AS 15：18、 VP 5：7。 A群、 waist 18.8：18.6 (p)、 Mid 9.6：6.7 (p)、 Ao 15.6：12.9 (p)、 Post 12.7：9.9 (p)、 Edg 10.1：8.6、 AS 26：20、 VP 1：15 (p)。 F群と A群の比較では交互作用はないが、 Midと Edg、 ASで有意差を認めた。 F群が A群に比し Midは薄くなるが、 Edgが閉じず A shapeが保たれ、 Valsalva wallの圧迫は増加しない傾向にある。【考察】両者とも deviceは平坦化するが、 FFIIOは Edgが開いたまま保たれるので Valsalva wallを圧迫せず erosionの riskが低くなる。 Ao rimが広範囲に欠損している症例では FFIIOを A shapeで留置することが望ましい。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery